



(桜井・吉野山)

本調査は、都市公園築造に伴うものである。調査地は、「かしはら万葉ホール」の南東約二〇〇mに位置し、西約五〇mには藤原京西四坊大路・下ツ道(現国道一六九号線)が南北に通る。また、藤原京復原条坊では、右京五条四坊南西坪・同六条四坊北西坪にあたり、対象地の北部に五条大路推定線が

奈良・藤原京跡右京六条四坊北西坪

ふじわらきよ

1 所在地 奈良県橿原市小房町

2 調査期間 一九九八―一九九九年(平11) 一月

―三月

3 発掘機関 橿原市教育委員会

4 調査担当者 濱口和弘

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 七世紀末―八世紀初

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、都市公園築造に伴うものである。調査地は、「かしは

通る。

今回の調査で検出した主な遺構は、中・近世の水田耕作に伴う小溝群、藤原京期の道路側溝(五条大路北側溝)・掘立柱建物・井戸・土坑・溝などで、これらの遺構に伴う遺物が出土した。

今回報告する木簡は、第二トレンチで検出した藤原京期の井戸(〇八七―S E)から出土したものである。この井戸は、直径約二・二m深さ約一・六二mを測る。井戸枠は全て抜かれていたが、木簡以外に土師器・須恵器の杯・甕・壺などが出土している。

8 木簡の積文・内容

(1) 奉カ 直者 (83) × (26) × 3 081

上端と右側面が欠損している。第一字が「奉」であれば、「…シ奉ル。直セル者…」(以下、裏へ)となり、「奉」ではなく他の文字であれば、第一字は物品名の可能性があり、その場合は「□ノ直者」となる(以下、裏面)。

なお本木簡の積読にあたっては、奈良国立文化財研究所寺崎保広

氏のご教示・ご

協力をいただいた。

(濱口和弘)

